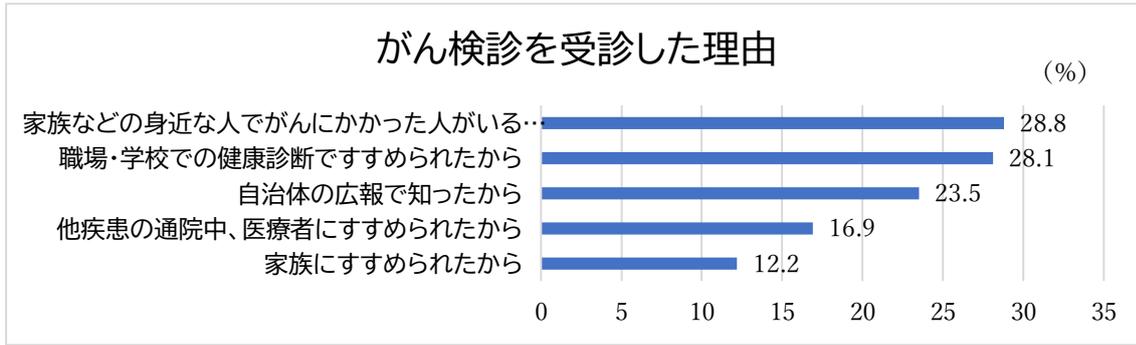


正しく知って受診しましょう！がん検診

熊本県のがん検診受診率（令和4年度）は男女とも全国平均よりも高い状況で、多くの人が積極的に受診しています。

令和5年「がん対策に関する世論調査」では、がんの予防や早期発見のために、ここ1～2年以内になん検診を受診した理由（複数回答）の上位5位になり、多くが身近な方ががんにかかったり、職場や自治体などで健診を勧められたり、知ることにより受診をしたようです。

がん検診は自覚症状がないうちに、早期に見つけることで、命を落とさずに済む可能性が高くなると言われています。症状がないから、忙しいからと後回しにせず、検診を受けましょう！

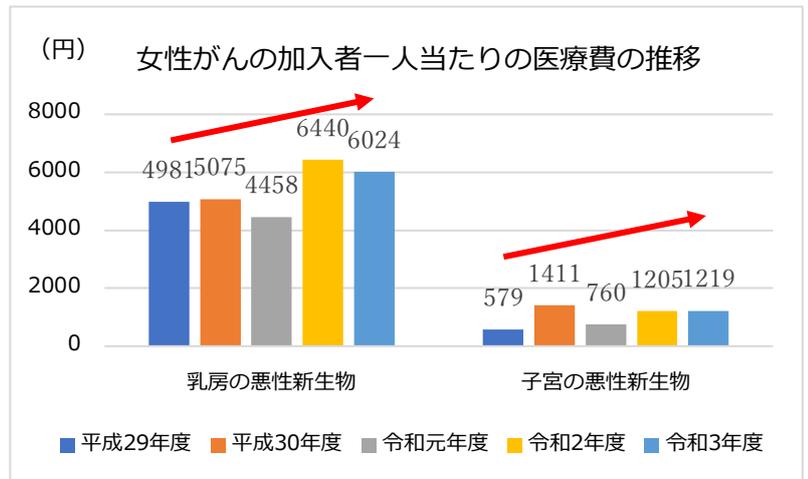


出典：令和5年「がん対策に関する世論調査」内閣府政府広報室

1. 熊本支部のがんの状況

公立学校共済組合熊本支部でも、加入者1人あたりのがんにおける医療費は高い傾向にあります。

特に女性がん(乳・子宮頸部がん)が増減を繰り返しながら、高い傾向にあります！



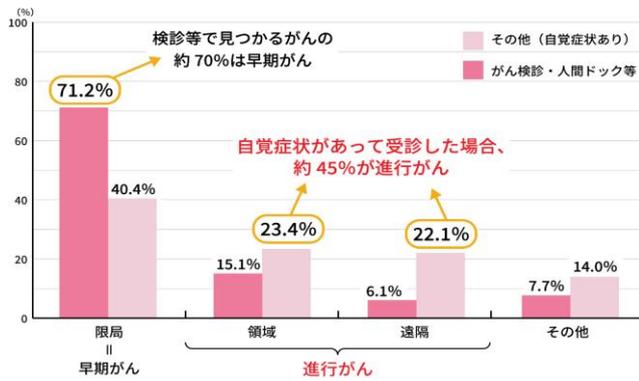
2. がんの進行と自覚症状がでるまで・・・

人間の体は細胞からできています。がんは、普通の細胞から発生した、異常な細胞のかたまりです。正常な細胞は、体や周囲の状態に応じて増えたり、増えることをやめたりします。怪我をすれば増殖して傷口を増やし、傷が治れば増殖を停止します。

しかし、がん細胞は、体からの命令を無視して増え続けます。勝手に増えるので、周囲の大切な組織が壊れたり、本来がんのかたまりがあるはずのない組織で増殖したりします。



3. がん発見経緯による特徴はこれだけの違いがある！？



乳がんは早期発見できれば
ほぼ100%の方が5年経過
後も生存されています

自覚症状がなく、検診で
見つけるがんの約7割は
早期がんなんです。



出典：厚生労働省「全国がん登録」健康づくり推進課調査

4. がん検診の種類

国が推奨するがん検診は5種類です。これらの対象年齢や受診間隔は、検診による利益が確認され、検診による不利益（検診による偶発症の発生等）が最も小さくなることが考慮されたものです。

保険者で助成する検診では、国の推奨年齢と異なる場合もありますが、少なくとも国が推奨する年齢の方は受診間隔等を参考にしてください。

種類	対象者	受診間隔	検査項目
胃がん検診	50歳以上 ※当分の間、胃部X線検査に 関しては40歳以上に実施も可	2年に1回(いずれか一方) ※当分の間、胃部X線検査に 関しては年1回の実施も可	問診に加え、胃部X線検査 または胃内視鏡検査のいずれか
肺がん検診	40歳以上	1年に1回	問診、胸部X線検査および 喀痰細胞診
大腸がん検診	40歳以上	1年に1回	問診および便潜血検査
乳がん検診	40歳以上	2年に1回	問診および乳房X線検査 (マンモグラフィ)
子宮頸がん検診	20歳以上	2年に1回	問診、視診、子宮頸部細胞診 および内診

5. がん検診のメリットとデメリット

メリット	デメリット
がんの早期発見・早期治療により、 がんの罹患率や死亡率が減少すること	がんでないのに「要精密検査」と判断される場合(偽陽性)や、がんがあるのに見つけられない場合(偽陰性)がある。 ⇒がん検診の精度は100%ではない！(微小のがんや検査そのものの限界等によるもの) そのために、定期的な検診が必要です。

6. がん検診を受けた後、大事なこと

がん検診で「精密検査が必要」と判定されたら、必ず精密検査を受けてください。

がん検診で精密検査が必要(要精検)と判定された場合、「がんの疑いがある」可能性があります。

より詳しい検査を行い、本当にがんがあるかどうかを調べる必要があります。

精密検査を受ける医療機関については、自治体や検診を受けた医療機関やかかりつけ医などにご相談ください。

また、がん検診は症状がない方を対象としたものです。
症状のある方は検診を受けるのではなく、すぐに医療機関を受診してください。

